



**2017年度 年主題〈愛されて育つ〉**

**1・2歳児 12月主題「うれしい」**  
 月のねがい  
 ◎クリスマスの雰囲気を楽しみながら、イエスさまのお誕生を喜ぶ  
 ◎冬の自然にふれ、寒い冬でも元気に遊ぶ  
 ◎保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする

**3・4・5歳児 12月主題「賛美」**  
 月のねがい  
 ◎クリスマスの意味を知り、楽しみに待ち祝う  
 ◎心を合わせて喜びや感謝を表現する  
 ◎社会や世界の出来事に関心をもち、自分たちができることを考える



**転がしドッジボール**

平成30年4月から、改訂「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が施行されます。その中で、初めて幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿が示されることになりました。

- ・健康な身体と心
- ・自立心
- ・協調性
- ・思考の芽生え
- ・社会性の関わり
- ・言葉による伝え合い
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・自然との関わり 生命尊重
- ・豊かな感性と表現
- ・数量・図形・標識や文字などへの感心・感覚

子どもたちが転がしドッジボールをしていたときの出来事です。ご存知のように、円の中にいる友だちめがけてボールを転がしてぶつけるゲームですが、1つのボールを皆で共有しなければならないところがとても難しいようです。自分が持って転がすのはいいのですが、自分にボールが回ってこないと心が乱され、くじけてしまうことがあります。案の定、この時もKちゃんが泣きながら訴え、急に怒り出しました。そんなKちゃんの泣き声が響く中、ゲームは続いていきました。

しばらくして、Rくんがボールが回ってきました。嬉しそうに手に取りボールを投げようとしたその瞬間、彼はハッとしたようにその手を止めて、Kちゃんにボールを渡したのです。一瞬その場の時間が止まりました。Kちゃんも「何？」と、その意味をすぐには飲み込めませんでした。そして我に返ると、譲ってくれたボールを受け取り、涙も拭かずに思いっきり転がしたのです。

KちゃんもRくんも4月からは一年生です。保育者や友だちと関わりながら試行錯誤を重ね、様々な体験を通じて学びを深めたり発展したりできるように努めていきたいと思えます。

園長

**今月の聖句**  
 「今日ダビデの街で、あなた方のために、救い主がお生まれになりました。」  
 ルカ 2:11

12月は「師走」と呼ばれ、あれこれと忙しい月です。「忙」の字は心と亡ぼすの合意語です。忙しいことは心に余裕がなくなり、うっかりすると心が亡ぼします。心しましょう。

12月はまた、クリスマスのも月でもあります。クリスチャンでなくても、家庭で子どもたちと一緒にクリスマスを祝う方が増えています。クリスマスには「メリー・クリスマス」という挨拶を交わします。このcongratula「クリスマスおめでとう」の意味。正月に「おめでとう」の挨拶を交わすのに似ています。では、何がめでたいのでしょうか。

第一、「おめでとう」は英語でCongratulation(あなたに恵みがある)の意味です。

第二は「あなたの救い主」がおいでになったことです。「救い」とはキリストさまが現世も来世も平安と感謝で過ごせるよう導いてくださるから「めでたい」のです。私たちが例外なく持っている問題は「人間の罪」です。自己中心という罪。この罪をキリストさまがゆるし、あなたを天国(神の家族)に導いてくださいます。

第三は新しい国の完成です。人間は国をつくり、政治という手段を通して人のために奉仕する建前を持っています。しかし、それは表向き。実際は欠陥だらけ。不平等、不正、災害、戦争、恐怖等々。

キリストさまだけは人をうらぎらない。平和で公平な霊的国を建設し、あなたを迎えてくださいます。

前理事長 池田公栄

**12月の行事予定**

1日(金)	もちつき大会
8日(金)	クリスマス会予行
16日(土)	クリスマス会
〃	子育て講演会
19日(火)	給食パイキング
20日(水)	弁当日
21日(木)	終園式(1号午前保育)

**1月の行事予定**

9日(火)	始園式(1号午前保育)
11日(木)	誕生会(1・2月生まれ)
〃	弁当の日
20日(土)	持久走大会 弁当の日

**1号認定児 入園申込み受付開始 12月1日(金)**  
 ご紹介を何卒宜しくお願いします!



\*\*\*お知らせ\*\*\*  
 園ホームページにて『ごども園からのお知らせ』にて【大切なお知らせ】として、感染症による欠席状況を案内しています。



例年の如く、あれやこれやで日々追われているうちに、いつの間にか年の瀬という言葉が聞こえてくるようになってきました。今年も、共にクリスマスを迎えることができて、大いに感謝です。日本語の「贈り物」を表わす英語には二つあるようです。一つはプレゼント、そしてもう一つはギフトです。プレゼントとギフトはどちらかというと親しい者同士で贈るものがプレゼントで、目上の者から目下の者に贈る物がギフトのようです。そうすると、お世話になった人に対して年末などに贈る物をギフトというの、ちょっと使い方が違うのかも知れませんが、なぜならば、プレゼントは贈り物ですが、ギフトは贈物という意味だからです。

皆さんはご存じかもしれませんが、私はつい最近、サヘル・ロイズという在日イラン人の女優のことを知りました。彼女は四歳の時、1989年のイラン・イラク戦争の際の空爆によって両親と十人の兄弟を失い、彼女一人が瓦礫の下から奇跡的に救出されたそうです。その瓦礫の下から彼女を見つけてくれたのがボランティアで救助に加わっていた二十歳のフロラという女子学生でした。不思議な出会いによって、なんと一ヶ月後には彼女はフロラの養子になったのです。しかし、その事でフロラは実家から勘当を受け、婚約者がいた日本にサヘルと共に来ることになりました。ところが、婚約者とはサヘルのごとで不和となり、母子でアパートを出て、ホームレスになり、雨が降ると公衆便所まで雨宿りをするような生活が始まりました。小学校でサヘルはひどいじめにも遭ったといいますが、「自分は給食があるけれど、養母は食べるものがない」という極貧の中で高校に行き、大学に進み、専門学校の演技の勉強をして、女優の道が開かれたそうです。驚くのはこの女子学生にしか過ぎなかったフロラという若い女性の行動です。幼い子供を救いたいというその一心で、自分の大事な人生を一人の女の子に捧げ、家を、そして祖国を後にして、言葉も通じない、習慣も違う異国の地で、本来、縁もなければゆかりもない、育てる義務など何一つないような子供を育て上げたのでした。日本における生活の苦労は筆舌に尽くしがたいものであったようです。サヘルにとって、養母のフロラはまさに天からの賜物であったのでした。

クリスマスから始まったクリスマスに関する一連の出来ごとは、天からの有難い「ギフト」そのものです。その賜物を思うと、世界中の迫害・弾圧されてきた人々を思い起こします。今もこの瞬間に多くの人が苦しみの中の中にあります。そのような弱者・貧しい者の代表である羊飼いに、最初にイエスの誕生の知らせがあったことに、大きな意味があるのです。クリスマスを通して、イエスの降誕の真の意味を共に学びたいと思います。これからインフルエンザの流行が予想されます。健康に留意され、穏やかな年末年始をお過ごしに学園長

今井和子先生の「0歳児から5歳児行動の意味とその対応」より「1歳児 何をしてもイヤイヤ」

**悩み** 何をしてもイヤイヤでどう接したらいいのか?

**対応法** お互いに折り返し合えるところで約束をする

この時期は、他者とぶつかりあい、自分の思っていることと大人の思っていることが違うことに気づくことが大切。また自分の要求が常に通るわけではないことを学ぶチャンスです。信頼できる大人とぶつかりあい、人との葛藤を切り抜けることを知っていきます。かといって、自我が芽生えてきた子どもに、「そんなこといっちゃダメよ」とか、「ちゃんということ聞きなさい」と、一方的に叱ると、単なる親子戦争で終わってしまい、せっかく芽生えてきた自我の芽を摘み取ってしまいます。まずはイヤイヤを受け止め、頭から否定しないで、なぜイヤなのかを理解しましょう。

たとえば、「ごはんまだ食べたくないんだ。パズルがやりたいんだね」といった具合に、子どもの気持ちを代わりに言葉で表現してあげましょう。そのうえで、「でも、お母さんは時間が遅くなっちゃうから、もう食べてほしいの。これだけやったら、食べようね」と、親の考えを伝えます。子どもは要求が通らなくても、ひとりの人間として尊重されている、気持ちがわかってもらえている、と伝われば、我慢できるようになっていきます。

自己主張や長泣きはわがままではなく、混乱しているだけなので、「困っているのね。どうしていいかわからなくなってしまったのね」と、大人が待つてあげれば、気持ちが収まってまわりの状況が見られるようになります。折り合いをつけることは=会話をすること、のはじまりです。親の考えをちゃんと伝えていくことで、人の気持ちを大切にしよう、という心も育っていきます。